

美術専攻 環境デザイン研究領域

ウ ケンゲン

于 妍妍



都市におけるフリーマーケットの空間形式に関する 研究——バブルマーケット

スチレンボード、アクリル、木材、3Dプリント、レーザーカット、
手作業による模型制作

都市におけるフリーマーケットの空間形式に関する研究 ——バブルマーケット

私は、中国の大学で、野菜市場という生活に密着した空間に着目し、都市の中で市場が果たす役割について考察し、卒業制作を行った。日本に来てから、フリーマーケットが日本人の生活の中に自然に溶け込み、人と人をゆるやかにつなぐ場として機能していることに気づいた。

フリーマーケットにおける「フリー “Flea”」とは、英語で「蚤」を意味する言葉であるが、日本では「フリー」という言葉から、「自由」を意味する “free” を連想する場合が多い。そこで、フリーマーケットとは何か、その空間形式や「フリー (FREE)」のあり方について、文献調査および現地調査を通して研究を行った。

計画地には町田を選定した。八王子と横浜を結ぶ中継地点という特性を持つ町田において、フリーマーケットを人と活動を媒介する場として捉え、駅を挟んで東西をつなぐ位置に配置した。

本作品は、フリーマーケット、移動型店舗、道路空間の三つを軸に構成されている。計画地の中央のフリーマーケットは専門的な販売者と周辺住民が利用する場とし、そこを起点に移動型店舗が周囲へと展開する。移動型店舗は、東側の飲食街では店舗による利用を、西側では公園周辺の住民が関われる仕組みとして計画した。

設計テーマとして「バブルマーケット」を提案した。フリーマーケットが持つ場所依存性、一時性、柔軟性といった特徴は、泡の性質と重なると考えた。泡のはかなさは市場の一時性を象徴し、泡が生まれる瞬間の楽しさは市場の持つ高揚感を表現している。バブルマーケットを「泡出し機」のような存在として捉え、移動型店舗が泡のように生まれ、街へと広がっていく構成とした。道路空間では、泡の移動や変化を参照し、形態が不規則に変化しながら奥へ進むにつれて球体へと収束していく構成とすることで、人の視線と動きを街へと導く。

フリーマーケットは、単なる「物を売買する場」ではなく、人が立ち止まり、会話し、偶然の出会いが生まれる生活の延長としての公共空間である。本作品では、泡のように軽やかで柔軟な空間を通して、町田の魅力と人のつながりを可視化し、誰もが自分の居場所を見つけられる、開かれたフリーマーケットの在り方を提案した。